

めぐる・つなぐ・もてなす

大師参りの4月

4月21日になると、猿島地方のあちこちでは、赤い生地に「南無大師遍照金剛」と墨で書かれた旗が翻り、人々はそれを目印にお参りに出かけます。一年に一度の大師参りです。ここでいう大師とは弘法大師のことで、屋敷の一角に弘法大師を祭っている家々では、この日に限ってご開帳するので

す。それぞれの家の弘法大師像には、番号が刻まれ、四国八十八ヶ所に做って御詠歌まである。

いったいどんな巡礼なのか。何年も前のことになると、思い立ってお賽銭を目いっぱいポケットに入れ、その一つ「新四国

桜島岡霊場八十八ヶ所」のお参りに出かけました。

「新四国桜島岡」は総和町・三和町の旧桜井村・旧幸島村・旧岡郷村の大師像を巡るものです。その成立年代は、伝承によれば大正時代ともいわれていますが、江戸時代の大師像を祭っている家もあり、はつきりいつてよくわかりません。

明治44年生まれのある男性がおっしゃるには、気のあった者同士が鈴を鳴らしながら八十八ヶ所を巡礼する。参拝者は各所で御齋米を供え



新四国桜島岡霊場八十八ヶ所の札所（総和町）

る。大師様のある家では、その礼として餅などを振る舞う。盛んだったころは泊まりがけで、二日間にわたって巡礼をしたといえます。

ところが大師様を祭っている家では、自分のところは分かっているても、よその大師様のごとはよくわからないといえます。この先どこかかって？ 旗

が立っているとこだよ。こんな道案内でも、大方の人はわかってしまふ。昔からやっていることなのだ。総和町砂井新田出身のある女性は、大師様の日となると、古河の中田まで足を運んだのだという。なかには、八十八ヶ所？ うちは99番だよ、という家もある。どこでもいい、別に八十八ヶ所

にこだわっていないのだ。また、以前は、白い着物の参拝者が庭で輪になって踊ったこともあり、その振る舞いも盛大なものであったという。

大師をめぐり、人の輪をつなぐ巡礼。かくいうわたしも大師様の日は、総和・三和・野木へとあちらこちら歩きまわり、ただひたすらにもてなされ、踊りはしなかったにせよ、心もおなかも満腹なのであった。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之